

高槻市市民公益活動 サポートセンターニュース

発行 2007年(平成19)4月15日
高槻市市民公益活動サポートセンター
住所 〒569-0056 高槻市城南町3-1-1
西大冠小学校内
電話 072-674-3400
Fax 072-674-3401

e-mail:koueki-suport1504@aurora.ocn.ne.jp http://www.takatsuki_kouekisuport.com/

住民サービス向上 地域の課題解決

に向けて

平成19年度高槻市協働活性化モデル事業を募集

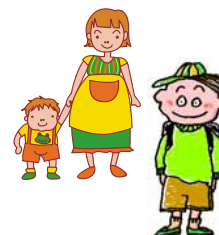
あなたの団体も応募しませんか

「高槻市協働活性化モデル事業」は今年で3年目を迎えます。

モデル事業は、「自らの力で住みよい地域社会を築いていくために、市民と行政が多様な協働関係を築き、地域課題の解決を図っていく」ことを目的としています。

この事業は、団体の日常活動に対して助成されるのではなく、団体が実施しようとする「公共性や地域の課題解決に効果的な成果が期待できる事業」に対して助成されるものです。補助金には 協働活性化モデル事業補助金(40万円限度)と協働奨励補助金(5万円限度)の二通りありますのでどちらかにご応募ください。

多数のご応募を期待しています。



問合せ先：高槻市市民協働部市民参画室

コミュニティ推進課(tel.674-7462)

説明会：4月28日(土) 16時ごろから

会場は生涯学習センター3F 研修室

この日は13:30から同会場で18年度のモデル事業の成果報告会を開催します。提案の参考のためにもぜひご参加ください

事業スケジュール

応募期間 4月25日(水)～5月21日(月)

補助金交付 8月ごろ



= 目 次 =

- 1面 平成19年度高槻市協働活性化モデル事業の募集はじまる
- 2～3面 登録団体の活動現場から・・・「福祉文化ボランティア」活動交流会から
- 4面 登録団体 活動の広場

笑顔にエネルギーをもらって



福祉の現場に文化・芸能の ボランティアに出かける人たち

サポートセンターの登録団体の中に、福祉施設や病院、老人会や子ども会のイベントなどで音楽や演芸などを披露したり、折り紙やレクリエーションなどをいっしょに楽しみながら交流しているボランティアグループがあります。それぞれジャンルは異なりますが、身につけた文化・芸能の技を活かして、高齢者や障害者、子どもたちに喜びや感動を届けたいという思いは共通です。今回は、サポートセンターが呼びかけて、このような「福祉・文化ボランティア活動」をしている団体の交流会を開催するとともに、活動についてのアンケート調査にもご協力いただきましたので、今回と次回の二回にわたってご報告します。

福祉・文化 ボランティア活動 交流会を開催

5 団体 8 名の参加で活動の交流

交流会は、3月30日、サポートセンター会議室で行ないました。「あそび塾」、「SAひまわり21」、「おもちゃ箱」、「高槻島本人形劇連絡会」、「メルヘングループ」の5団体から8名が参加、活動内容を紹介しあったり、活動を続けていく上での苦労や、やりがいなどについて語り合いました。

活動の場を広げたい

多くの団体が、デイサービスや老人ホームなどの福祉施設、老人会や社協主催の「食事会」などを訪問している他、小中学校、幼稚園、保育所、子ども会など、子どもにかかわる団体にもでかけ

ています。依頼は、相手先の団体から直接くることが多いようですが、仲介者を通したり、ボランティア市民活動センターを通じて紹介を受けることもあるそうです。いずれにしても、どのようにして活動の場を広げていくかが、各団体の課題になっています。

悩みもいろいろありますが...

活動していく上で困っていることはありますかとの質問に対しては、「道具を運搬するのに車がなくて困っている」「親子折り紙教室で、携帯メールに熱中するお母さんがいる。子どもといっしょに楽しんで欲しいけど、どうしたらいいのか」「いい作品を作ろうとするとお金がかかる」などの悩みが出されました。大道具や小道具、材料がいる団

SAひまわり 21 大阪府シルバーアドバイザー(SA)養成講座修了生によるグループで、シルバーの生きがいづくりの支援と世代間交流を通じたまちづくりを目指します。歌、オカリナ、ハーモニカ、南京玉すだれなどの演芸、健康体操やディスコンの指導、高齢者への英会話の指導など、メンバーのできることに応じて、ボランティア活動をしています。 健康体操・・・



民謡「松の会」 唄・三味線などによる民謡のボランティアグループです。民謡を通じて社会との接点をつくり、生きがいを追求しようと設立されました。毎月訪問している施設では、聴いていただくだけでなく、いっしょに唄って楽しんでいただいています。...



体では、その購入費や制作費、運搬にお金がかかります。また、各団体とも日頃の練習や研修が欠かされませんが、そこにも見えない経費がかかっています。これに対して、依頼側の団体から受け取る謝礼については、「志に任せている」という団体がほとんどです(実態としては交通費と食事代程度)。中には自分たちの「技量」に応じた出演料を設定している団体もありましたが、反対に、金銭での謝礼は「お断りすることにしている」という団体もありました。「お金をいただくことで、良いものを見せなくてはという責任が強くなると思う」という意見には皆さん肯いておられましたが、一方、「依頼する側の予算も限られている」「まずは聴いてもらいたい」「もともと福祉ボランティアとして始めたことだから」という発言もありました。

喜んでもらえて嬉しい!

そんな中で活動を続けている皆さんですが、力の源は何ですか、とお聞きすると、「好きだから」「喜んでもらえると嬉しい」「やっぱり人に観てもらいたい」と口々にお答えが帰ってきました。ある老人施設で、日ごろ笑顔を見せないおじいさんが、自分たちの演芸を観て楽しそうにして、帰りには「荷物を持とうか」と声をかけてこられたエピソードが紹介され、「そんなときが一番うれしい」というお話になりました。



...あそび塾

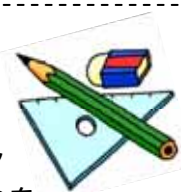
折り紙や牛乳パック工作、紙芝居などを介して、高齢者から幼児までといっしょに遊びながら時間をともに過ごすことを目的としています。

* 団体の紹介は次号にも続きます。

「余白」や「立体感」のたいせつさを学びました

・・・「ちらしづくり」講座終了 1/31・2/7・・・

第2回の編集講座、JR駅前の交流センターを会場に、「ちらしづくり」に取り組みました。受講生は10名。自分の団体のイベントちらしを作るという宿題が出され、2回目にそれを持ち寄り、講評を受けました。参加者からは「余白の大切さ」「めりはりをもたせること」「文字やイラストの効果的な使い方」「立体感や明暗」など、「目からうろこ」だったり「再確認」できたという感想が寄せられました。今回の受講生の人数は適当でしたが、この時期、編集に関する同じような企画が他にも2団体で取り組まれていたこともあり、今後は事前に情報を得たり調整したりして、開催時期の適合性も含めて、合同企画にするとか、サポートセンターの独自性を打ち出すとかの工夫が必要との声も・・・。



市職員NPO体験研修

高槻市は、サポートセンターの協力を得て、職員をNPO法人に派遣し、活動体験を通してNPO法人の活動状況や現状にふれるとともに、本市における市民公益活動の役割を学ぶことを目的に「NPO 体験研修」を行っています。また、今後のNPOとの相互理解や協働に関する事業展開の基礎づくりにも役立たせようとのねらいもあります。

平成18年度は、職員4名が平成18年10月から平成19年3月までの期間中にそれぞれ5日間の研修を終えることができました。体験研修にご協力いただいたNPO法人の方々に厚くお礼申し上げます。

研修に参加した職員は、NPOとの協働を進めるにあたって、研修で学んだ成果を活かしていくものと思います。また、他の職員にも共通して理解できるよう庁内へも研修の成果を報告したところです。

(コミュニティ推進課 那須秀樹)

登録団体 活動の広場



手作り絵本 「いろえんぴつ」

この会は、自分たちの作る楽しみとともに、子どもたちの感性が豊かに育つために絵本が少しでも役に立てたらと、手作り絵本の編集・製作をし、作品展で多くの方に見ていただいています。

会の設立・運営は、高槻市が催した絵本講座の卒業生が中心となり現在 21 名が活動しています。

去年は、10 周年の記念作品展を行ないました。

作品づくりは、年間テーマを決めそれをもとに各会員が、それぞれの地域で活動をしています。

作品のテーマは、身のまわりにあるものや、ことがらから選んでいます。最近では、「世界でた

った一つの手作り絵本」(青木 珠代 監修)に掲載されました。



例会は、毎月一回(第3金)に開催しています。

発表会は、年一回秋に、作品の集約を行い、編集して共同作品展を行なっています。

連絡先：682-5107(浦本)

頭部外傷や病気による後遺症を持つ 「若者と家族の会」

事故や病気で重い後遺症を発症してしまった「中途障害者」とその若者を介護している家族の会です。1995年9月に結成。関西を中心に約200家族、賛助会員など約100名の会員で構成されています。

会員同士が知恵を出し合い、障害者の社会復帰と障害克服の方法を考えています。例会では、治療方法やリハビリなどの情報の交流を図り、孤立している会員がないようにしています。

講演会・勉強会

脳機能障害の専門家、医療・福祉関係者を招いての学習・交流をしています。会報は年に3~4回発行。

リハビリの一環として音楽運動療法士によるバランスボール(右・写真参照)を使った訓練などを行っています。当事者・家族のほか脳外科医・療法士・ボランティアなどに活動を支えていただいています。高槻の会場は春日文化センターです。



関連書籍の発刊

『生きててもええやん』(1500円・せせらぎ出版)

連絡先：市内北大樋町 15-1-110 673-4169(塚本)

特定非営利活動法人 高槻ブロードキャスト

～市民中心の情報発信プラットフォーム局～

高槻市のインターネット放送局・Radio171

高槻市は地方自治体としては、全国初となるインターネット放送局「Radio171」を開局。平成17年NPO法人として認証を受けた高槻ブロードキャストがその運営を担当しています。

インターネットによる音の配信

電波の届く範囲に限定されず、パソコンからインターネットに接続できる環境さえあれば、日本国内だけでなく、世界中で聞くことができます。



NPO法人高槻ブロードキャストとは?

私たちは、市民が主体となって行っている文化・芸術・環境などあらゆる活動の紹介・発表の場としてインターネットラジオ放送を活用し地域社会の活性化に寄与、共に発展する事を目的としています。

会員になることで、あなたの情報を世界に発信することができます。

連絡先： : 688-1362 fax: 665-5120(岩倉)

ホームページ：<http://www.tb171.net>

編集後記 編集メンバーが3名になりました。今回は、サポートセンターの業務の一環である登録団体間の交流のうち「福祉文化ボランティア」にかかわる団体の交流会をニューズレター発で開催しました。情報交流する中で新しい発見がお互いに得られ、収穫も多かったと思います。次号でも詳しくお知らせします。(衣川)